



変層する家

豊かな外部環境と連続した多様な「外の間」と「中の間」



連なる「間」によって様々な方向に視線が抜けていく



「外の間」によって周辺環境と調和した外観

—立体的に連なる「間」が広がりを与える住宅—

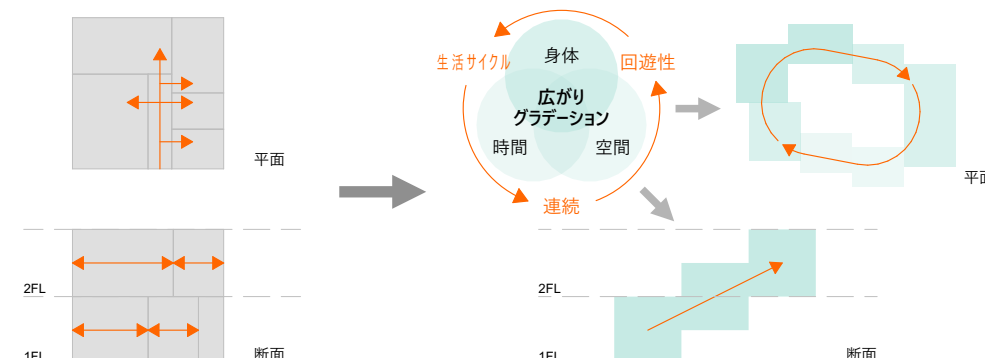
日本の伝統的な木造建築が培ってきた空間の特徴である—「内部と外部のつながり」「自然との調和」「室・間の連結」「平面的な広がり」—を、立体的に展開させることで、「重力から自由になる住宅」を提案します。この住宅は、日本古来の「間」の概念を、現代的に再解釈し、「内(ウチ)の間」と「中(ナカ)の間」と「外の間」の三つの間により、瀬戸内の自然環境と調和しつつ、時間空間的な広がりを含む居住空間を創造します。

木造モジュールとJ-耐震開口フレームを採用することで、平面は伝統的な「室・間」を連結させて、生活サイクルに寄り添った回遊性のある「内(ウチ)の間」を形成しています。断面計画は、スキップフロアを形成し、分断されない立体的な繋がりを作り出しています。移動に伴う上下運動により、空間の広がりを感じます。履行した空間の輪郭は、瀬戸内の豊かな環境を取り込んだ「内の間」に奥行きを与え、「外の間」は近隣の住宅や周辺環境と調和した建築としての住宅が建ち現れます。この住宅での身体・時間・空間の関係性は、グラデーション状に切り替わり、住む人の日常生活に寄り添います。

また、中心に位置する中庭のような空間は「中(ナカ)の間」として様々な関係性の緩衝体となります。この「間」は、日常動線であり、室と室、プライベートとパブリック、住宅と都市、家族間の視線や関係性を繋ぎとめる住宅の広場となります。

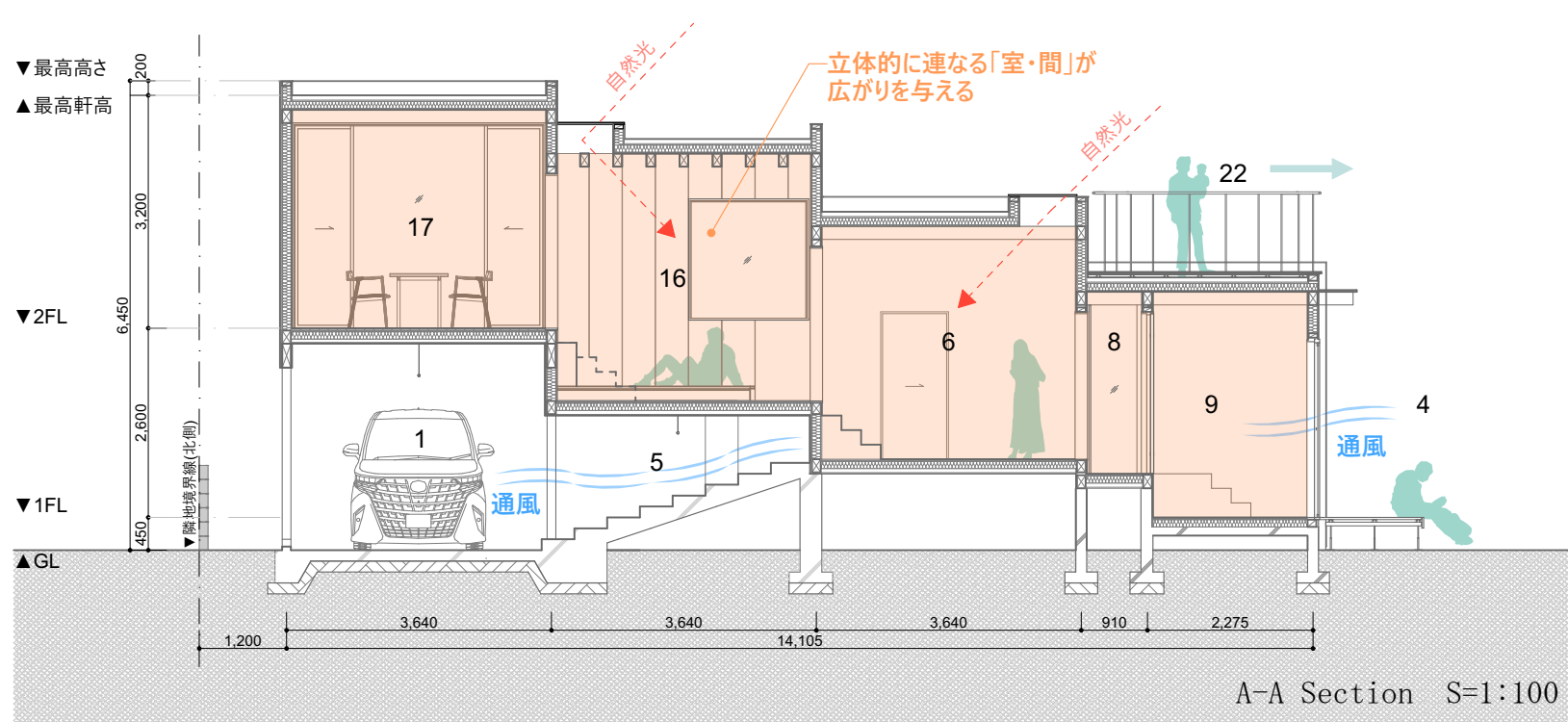
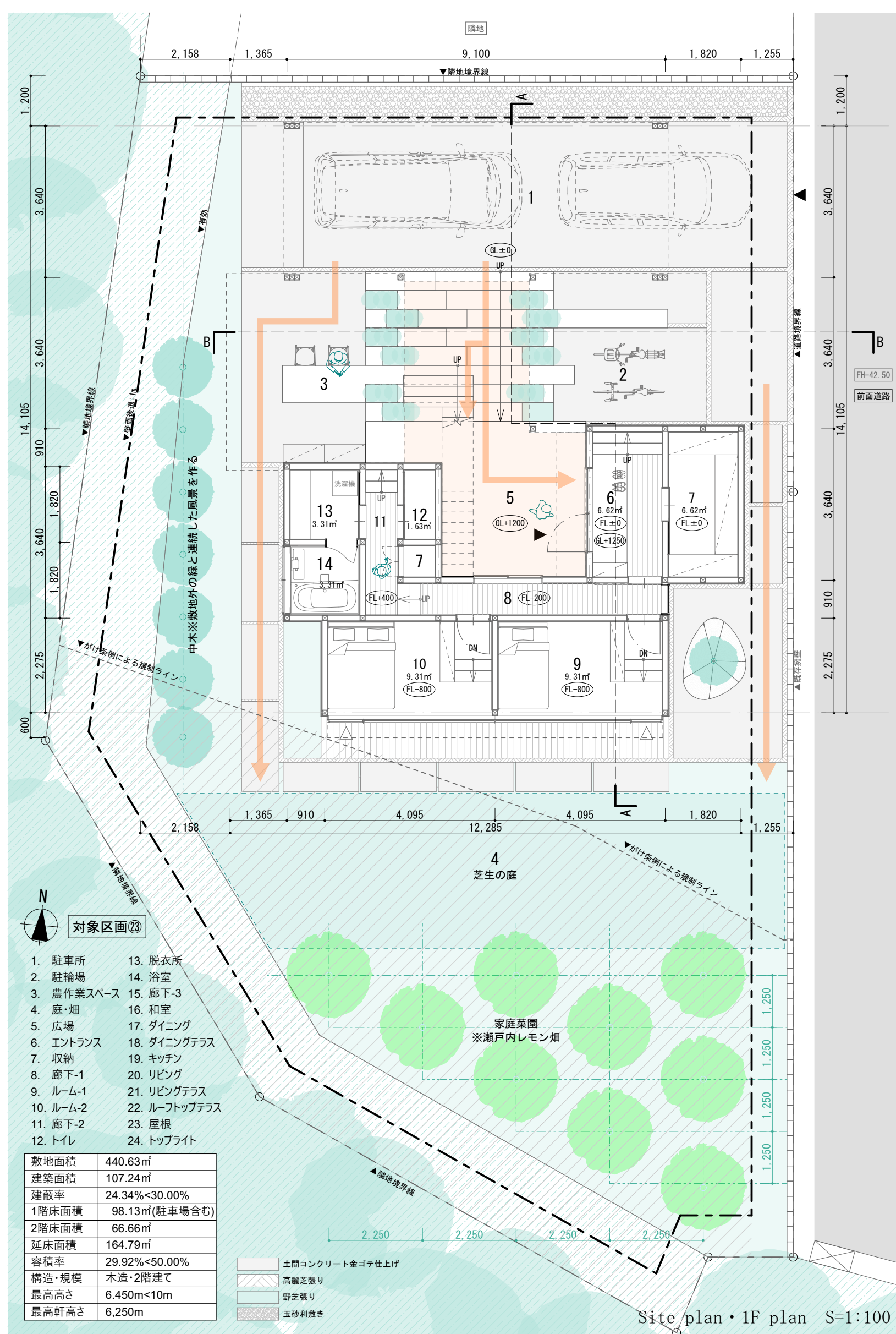
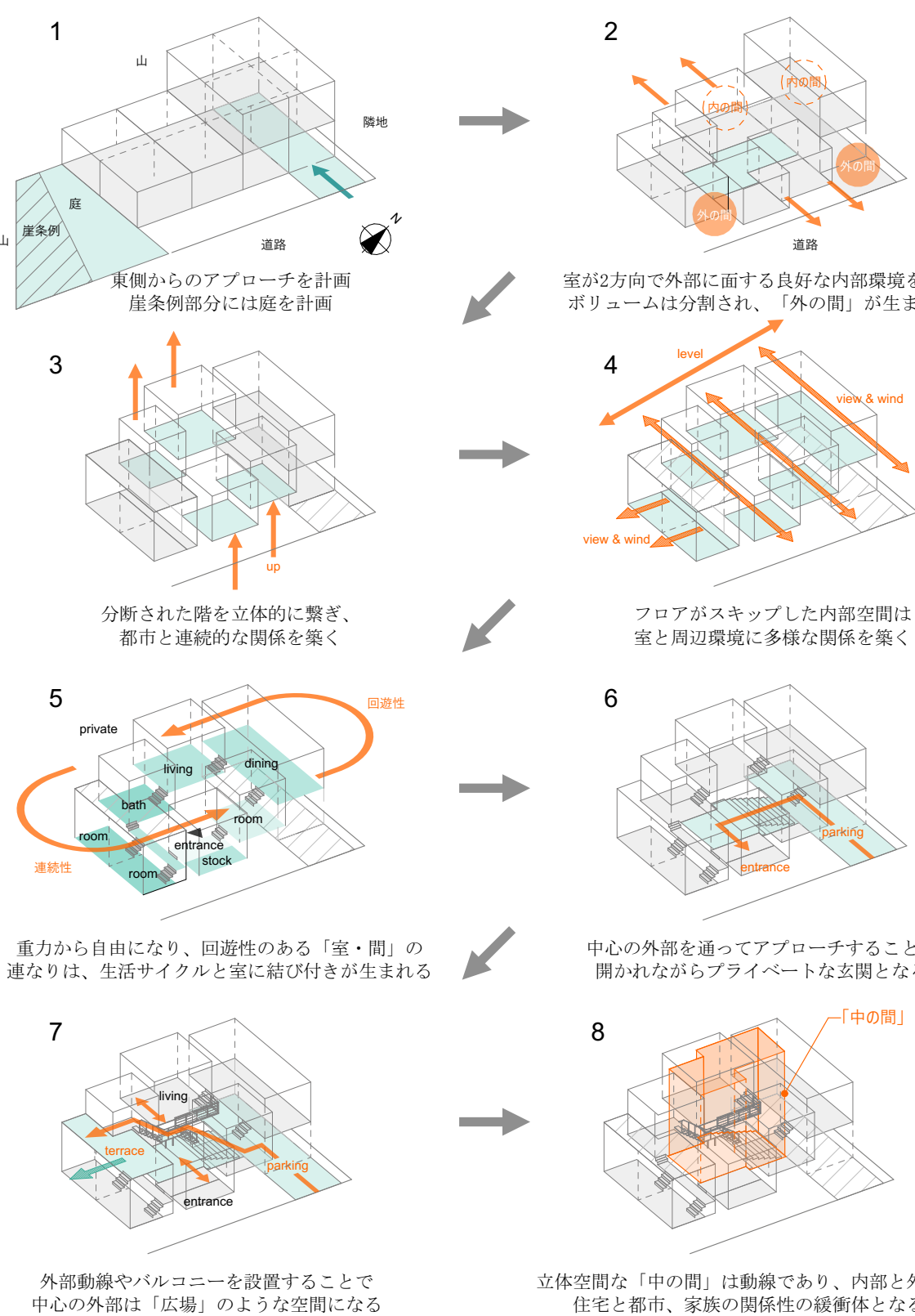
「内の間」と「中の間」と「外の間」が連なり、相互反応することで、立体的な空間の広がり四季による移ろいが、住宅のスケールを超えた空間体験を生み出します。生活スタイルの変化に合わせて「変層しつつある」体験と関係性を創造します。

○重力から自由なることで、新たな「室・間」の関係性を創造する

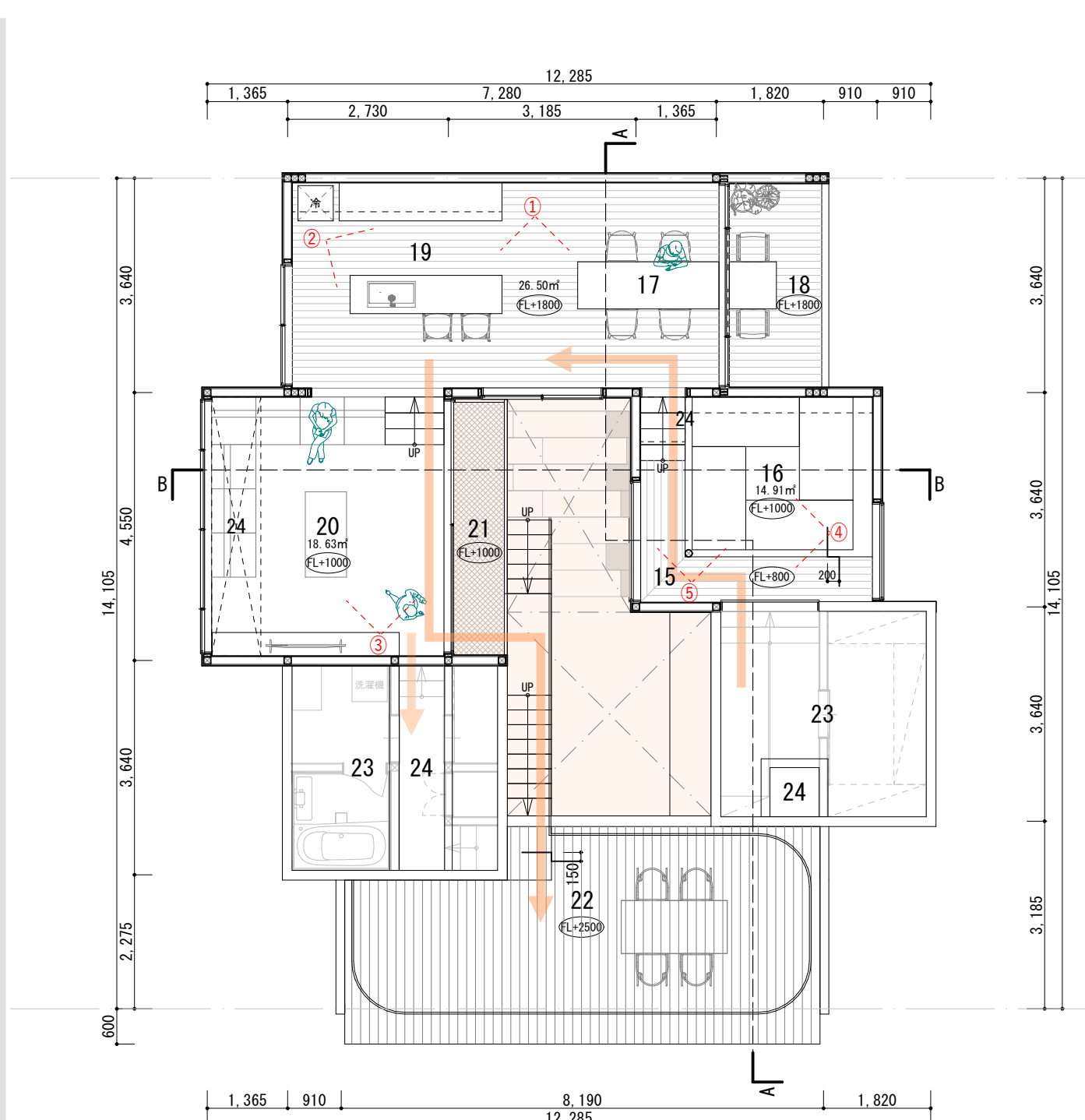


重力から自由になることで、日常生活の身体・時間・空間の関係をグラデーション状に変化させ、住む人の生活スタイルの変化に合わせて回遊のある「室・間」の関係性を作り出す。回遊性とフロアの連続からシークエンスが生まれ、住宅スケールを超える広がり獲得する

○瀬戸内の豊かな環境を生活に取り込む、3つの「間」

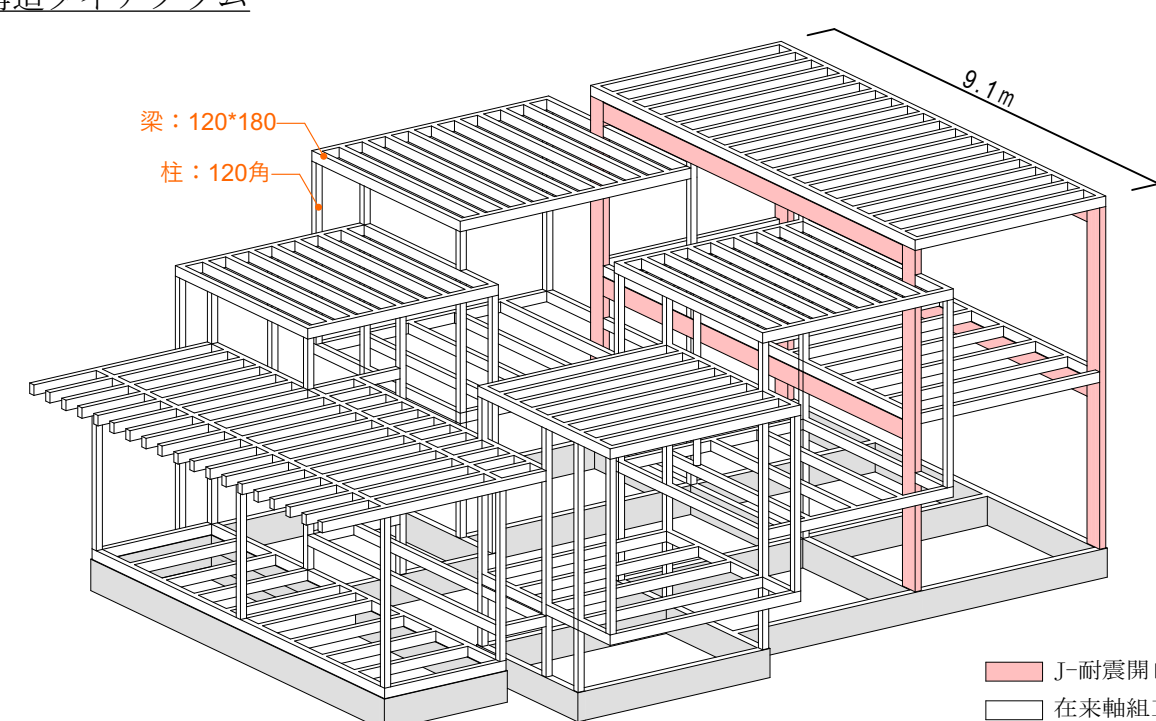


A-A Section S=1:100

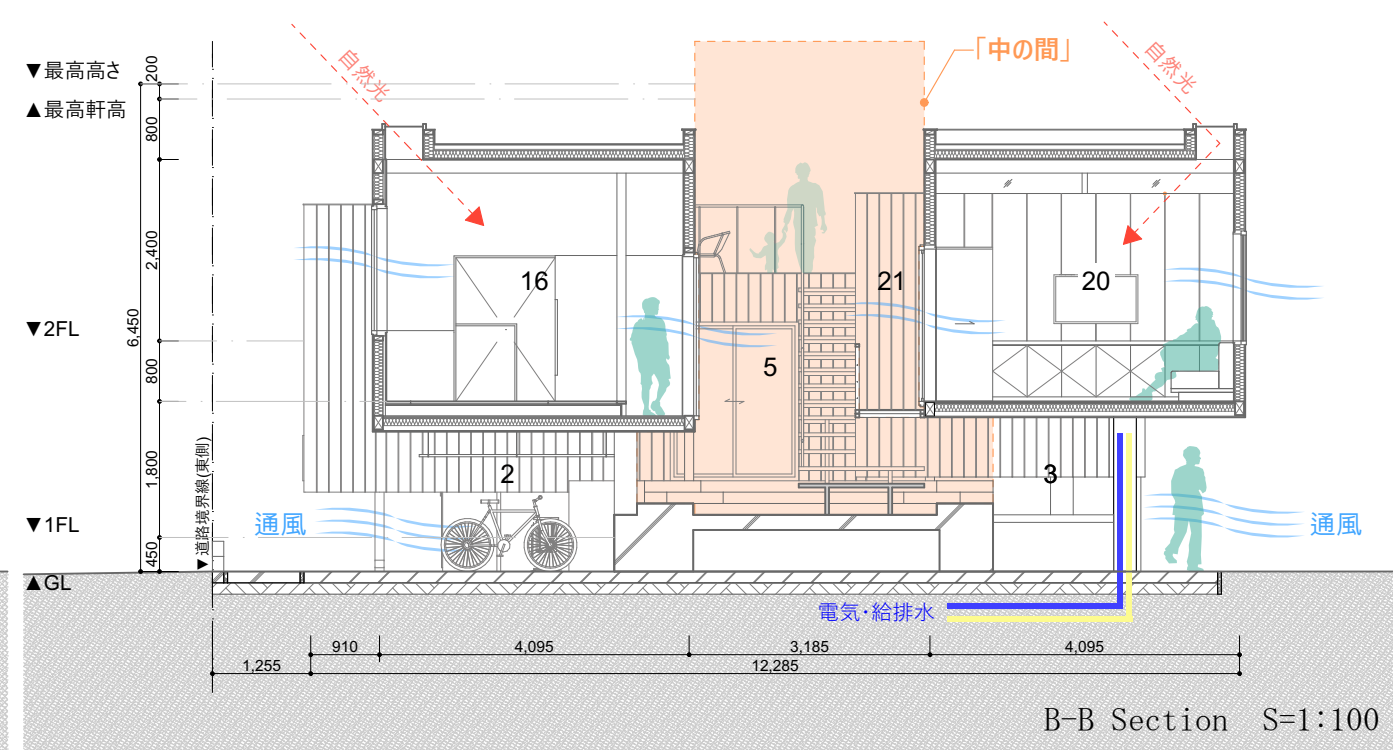


2F plan S=1:100

○構造ダイアグラム



最大スパン(9.1m)を飛ばす箇所のみJ-耐震開口フレームを用いて、その他一般部は、在来軸組工法で計画し、コストバランスに優れた構造計画とします。



B-B Section S=1:100



①様々な方向に視線が抜けていく「内の間」



②様々な「内の間」が連続する生活空間



③様々なレベルで交錯し、緩やかに繋がる「間」



④日々、うつろう環境と生活



⑤「中の間」によって外部と内部が連続し、豊かな自然と繋がる

